

平成30年9月3日

平成30年度全国学力・学習状況調査結果の概要

熊野市教育委員会

1. 教科に関する調査結果について

小学校の調査結果については、全教科で平均正答率が全国平均を下回った。しかし、理科については、全国平均を下回ったものの、前回（H27年度）調査の時と比べ5.1ポイント改善している。

中学校の調査結果についても、全教科の平均正答率が全国平均を下回った。しかし、当該学年が小学校6年生の時の同調査の結果と比べると、全国平均との差が4.9ポイント縮まった。

【小学校】

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	全教科平均
熊野市	65	51	56	46	57	55
三重県	70	54	63	50	59	59.2
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3	60.1
全国との差	-5.7	-3.7	-7.5	-5.5	-3.3	-5.1

【中学校】

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科	全教科平均
熊野市	71	55	57	39	58	56
三重県	75	60	67	46	66	62.8
全国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1	63.3
全国との差	-5.1	-6.2	-9.1	-7.9	-8.1	-7.3

2. 各教科における特徴

(1) 小学校

① 国語A 主として「知識」に関する問題

設問内容では、「相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立て話す」は90%の児童ができている。しかし、「文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く」H30年度全国平均を14.7%下回っている。学習指導要領の領域では、「書くこと」に課題がみられる。

② 国語B 主として「活用」に関する問題

設問内容では、「話合いの参加者として、質問の意図を捉える」では全国平均を若干下回るものの、80%の児童ができている。しかし、「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」では全国平均を11.3%下回っている。学習指導要領の領域

では、特に「書くこと」に課題がみられる。

③ 算数A 主として「知識」に関する問題

全体として当市の平均正答率は全国平均よりも下回っている。

設問内容では、「単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解している」では全国平均を3.2%上回り、経年的な課題の改善がみられる。しかし、「小数の除法の意味について理解している」では正答率が28.3%、「円周率の意味について理解している」では正答率が25%といずれも全国平均を11ポイント以上下回っており、基礎的な内容の定着に課題がみられる。学習指導要領の領域では「量と測定」が全国平均とほぼ同じだが、「数と計算」「図形」「数量関係」が8ポイント以上全国平均を下回っている。

④ 算数B 主として「活用」に関する問題

全体として当市の平均正答率は全国平均よりも下回っている。

設問内容では、「示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断することができる」と「折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断することができる」では、全国平均を上回っており、記述式の解答に改善がみられる。

しかし、「示された考え方を解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述できる」では、正答率が48.3%で全国平均よりも14.4ポイント下回っている。学習指導要領の領域では「図形」が全国平均を若干下回っていて、「数量関係」の正答率が38%と全国平均を7.1ポイント下回っている。

⑤ 理科

全体として当市の平均正答率は全国平均より若干下回っている。

16の設問中、4つの設問で正答率が全国平均を上回っている。特に実験を伴う内容について問う設問の正答率が高く、普段の授業の中で定量的な実験・観察の時間が確保されていることが成果に結びついたと考えられる。学習指導要領の領域では「エネルギー」と「地球」が全国平均に迫っている。

(2) 中学校

① 国語A 主として「知識」に関する問題

設問内容では、「段落相互の関係に注意し、読みやすく分かりやすい文章にする」では、正答率が全国平均は下回るものの78.6%の生徒ができています。また、「慣用句の意味を理解する」の正答率が96.0%「適切な語句を選択する」では正答率が96.8%でいずれも全国平均を上回っている。

しかし、「目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く」では正答率が18.3%と低く、無回答率も11.1%あり、課題である。学習指導要領では「書くこと」に課題がみられる。

② 国語B 主として「活用」に関する問題

設問内容では、「文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える」では全国平均を上回っている。しかし、「文章の構成や展開について自分の考えをもつ」では正答率が48.3%で全国平均を大幅に下回っている。学習指導要領の領域では「話すこと・聞くこと」に課題がみられる。

③ 数学A 主として「知識」に関する問題

設問内容では、「数直線上に示された負の整数を読み取ることができる」の正答率が90.5でほとんどの生徒ができています。また、「絶対値の意味を理解している」の正答率は全国平均を上回り74.6%である。しかし、「具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形することができる」の正答率が25.4%で全国平均よりも22.8ポイント下回っている。学習指導要領の領域としては、「数と式」の正答率の低さが課題である。

④ 数学B 主として「活用」に関する問題

設問内容では、「与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えることができる」の正答率は46.8%で全国平均を上回っている。しかし、「3つの計算の順番を入れ替えたときの計算結果を数学的に表現することができる」の正答率は52.4%で全国平均を15.9ポイント下回っている。また、「付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる」の正答率は27.8%、無回答率は38.1%で課題がみられる。学習指導要領では「数と式」「関数」に課題がみられる。

⑤ 理科

設問内容では、「炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、『変えない条件』を指摘できる」の正答率が45.2%で全国平均を上回っている。しかし、「化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる」の正答率が36.5%、無回答率が25.4%、また、「オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる」の正答率が36.5%、無回答率が23.8%で、ともに課題がみられる。学習指導要領の領域としては、「物理的領域」「生物的領域」に特に課題がみられる。

3. 児童・生徒質問紙調査結果について

【児童質問紙（小学校）】

回答の割合が全国平均を上回っている項目

	熊野市：	全国：
・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合		
○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	熊野市：90.8%	全国：85.3%
○将来の夢や目標を持っていますか	熊野市：87.5%	全国：85.1%
○家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか	熊野市：85.8%	全国：80.5%

○5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか
熊野市：84.1% 全国：74.4%

○新聞を読んでいますか
熊野市：35% 全国：19.9%

○理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか
※月に1回以上観察や実験を行った回数
熊野市：93.3 全国：89.1%

○理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか
熊野市：85.8 全国：81.8%

回答の割合が全国平均を下回っている項目

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合
熊野市： 全国：

○家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか
熊野市：62.5% 全国：67.6%

○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか
熊野市：31.6% 全国：49.9%

○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか
熊野市：72.5% 全国：77.7%

【生徒質問紙（中学校）】

回答の割合が全国平均を上回っている項目

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合
熊野市： 全国：

○家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか
熊野市：62.7% 全国：52.1%

○新聞を読んでいますか
熊野市：19.1% 全国：13.9%

○数学ができるようになりたいと思いますか
熊野市：94.4% 全国：92.5%

○理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか
※月に1回以上観察や実験を行った回数
熊野市：96.8% 全国：87.1%

○理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか
熊野市：78.6% 全国：72.3%

回答の割合が全国平均を下回っている項目

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合
熊野市： 全国：

○学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）どれくらい勉強していますか
※1日当たり2時間以上勉強している割合（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）
熊野市：15.1% 全国：36.4%

○今住んでいる地域の行事に参加していますか
熊野市：33.3% 全国：45.6%

○数学の勉強は好きですか

熊野市：40.5% 全国：53.9%

○数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか

熊野市：55.5% 全国：69.2%

○理科の勉強は好きですか

熊野市：52.4% 全国：62.9%

○1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか

熊野市：65.1% 全国：73.8%

4. 学校質問紙調査結果より

小中ともに、「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、児童・生徒に家庭での学習方法等、具体例を挙げながら教えるようにしましたか(国語／算数共通)」では肯定的な回答が100%だった。また、「言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか」でも、小中ともに肯定的な回答が100%だった。一方、中学校において「平成29年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有しましたか」では、肯定的な回答が全国平均よりも低く、今後さらなる小中連携の推進が必要である。

5. 今後の取組について

熊野市では、学力向上推進研修会を年3回開催しています。8月の第2回研修会は、今年度の全国学調における当市の課題を明らかにし、それを全職員で共有することで、今後の授業改善につなげていくことを目的に全員参加の悉皆研修会として開催しました。

また、市の指定により、外部講師の指導を受けながら授業改善に努めている学校や、県の事業「わかる授業・確かな実践事業」の指定を受け、算数・数学と理科の実践研究を進めている学校、独自で習熟度別授業に取り組みながら実践研究を行っている学校等もあります。今後、それらの学校の実践で得た成果と課題を他の学校にも還流し、県教育委員会が作成しているワークシート等も活用しながら更なる授業改善と課題の克服に努めていきます。

さらに、学力向上アドバイザーや紀州教育支援事務所指導主事・熊野市教委指導主事が学校訪問を行い、授業研究を通して学校での研修体制の充実を目指します。